

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年9月24日 (2010.9.24)

【公表番号】特表2009-542622(P2009-542622A)

【公表日】平成21年12月3日 (2009.12.3)

【年通号数】公開・登録公報2009-048

【出願番号】特願2009-517603(P2009-517603)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

C 0 7 K 14/435 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 27/02

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 45/06

C 0 7 K 14/435 Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月23日 (2010.6.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

IL - 4 を産生する T 細胞を眼中に蓄積させる作用物質を含む、加齢性黄斑変性症の治療のための薬剤。

【請求項 2】

前記作用物質が、

(i) コポリマー - 1、コポリマー - 1 関連ペプチド、又はコポリマー - 1 関連ポリペプチド、

(i i) IL - 4、

(i i i) IL - 4 によって活性化される樹状細胞、単球、骨髓由来ミエロイド細胞又は末梢血単核細胞、

(i v) IL - 4 を産生する遺伝子操作細胞、

(v) IL - 13 又は 20 ng / ml までの IFN - で活性化される骨髓由来ミエロイド細胞又は末梢血由来ミエロイド細胞、

(v i) 眼の T 細胞媒介性の特定の自己免疫疾患と関係がある病原性自己抗原、

(v i i) 配列が (v i) の病原性自己抗原の配列内に含まれるペプチド、又は前記ペ

プチドの改変によって得られるペプチドであって、改変が、異なるアミノ酸残基によるペプチドの1つ又は複数のアミノ酸残基の置換にあり（以下「改変ペプチド」）、前記改変ペプチドが、低い親和性ではあるが、親ペプチドによって認識されるT細胞受容体を依然として認識することができるペプチド、

(v i i i) (v i) の病原性自己抗原又は (v i i) のペプチド若しくは改変ペプチドをコードするヌクレオチド配列、

(i x) (i)、(v i) 又は (v i i) の作用物質によって活性化されるT細胞、或いは

(x) (i) ~ (i x) の任意の組合せ
から選択される、請求項1に記載の薬剤。

【請求項3】

前記作用物質がコポリマー1、コポリマー1関連ペプチド又はコポリマー1関連ポリペプチドである、請求項2に記載の薬剤。

【請求項4】

前記作用物質がコポリマー1である、請求項3に記載の薬剤。

【請求項5】

前記コポリマー1関連ポリペプチドが、以下の群：

- (a) リシン及びアルギニン、
- (b) グルタミン酸及びアスパラギン酸、
- (c) アラニン及びグリシン、並びに
- (d) チロシン及びトリプトファン

の少なくとも3個のそれぞれから選択される1個のアミノ酸残基を含むランダムコポリマーである、請求項3に記載の薬剤。

【請求項6】

前記ランダムコポリマーが、それぞれが(a) ~ (d) の群の異なる1つに由来する4個の異なるアミノ酸残基からなる、請求項5に記載の薬剤。

【請求項7】

前記4個の異なるアミノ酸残基がアラニン、グルタミン酸、リシン及びチロシンである、請求項6に記載の薬剤。

【請求項8】

前記ランダムコポリマーが、それぞれが(a) ~ (d) の3群の異なる1つに由来する3個の異なるアミノ酸残基からなる、請求項5に記載の薬剤。

【請求項9】

前記ランダムコポリマーが、Y A K、Y E K、K E A 及び Y E A からなる群から選択されるターポリマーである、請求項8に記載の薬剤。

【請求項10】

前記作用物質が、配列番号1 ~ 32によって表されるペプチドから選択されるコポリマー1関連ペプチドである、請求項3に記載の薬剤。

【請求項11】

前記作用物質がコポリマー1によって活性化されるT細胞である、請求項2に記載の薬剤。

【請求項12】

前記作用物質がI L - 4である、請求項2に記載の薬剤。

【請求項13】

I L - 4 が経鼻投与用である、請求項12に記載の薬剤。

【請求項14】

前記作用物質が、自己の又は適合ドナー由来の、I L - 4 活性化樹状細胞、単球、骨髓由来ミエロイド細胞又は末梢血単核細胞である、請求項2に記載の薬剤。

【請求項15】

前記作用物質が、I L - 13 又は 20 n g / m l までの I F N - で活性化される骨髓

由来ミエロイド細胞又は末梢血由来ミエロイド細胞である、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 16】

前記眼の T 細胞媒介性の特定の自己免疫疾患と関係がある病原性自己抗原が、ヒト光受容体間レチノイド結合タンパク質 (IRBP) (配列番号 33)、ウシ IRBP (配列番号 34)、ヒト S - 抗原 (S - Ag) (配列番号 35)、ウシ S - Ag (配列番号 36) 及びヒトロドプシン (配列番号 37) からなる群から選択される病原性ブドウ膜炎惹起抗原である、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 17】

前記作用物質が、

(a) 配列がウシ IRBP (配列番号 34) の配列内に含まれるペプチド、

(b) (a) のペプチドの改変によって得られるペプチドであって、改変が、異なるアミノ酸残基によるペプチドの 1 つ又は複数のアミノ酸残基の置換にあり、前記改変ペプチドが、低い親和性ではあるが、親ペプチドによって認識される T 細胞受容体を依然として認識することができるペプチド (以下「改変ペプチド」)、

(c) ヒト IRBP (配列番号 33) 又はウシ IRBP、(a) のペプチド、又は (b) の改変ペプチドをコードするヌクレオチド配列、並びに

(d) ヒト又はウシ IRBP、(a) のペプチド、及び (b) の改変ペプチドからなる群から選択される作用物質によって活性化される T 細胞

からなる群から選択される、請求項 16 に記載の薬剤。

【請求項 18】

前記ペプチド (b) がペプチド：

ADGSSWEGVGVVPDV (配列番号:38);
PTARSVGAADGSSWEGVGVVPDV (配列番号:39); 及び
HVDDTDLYLTIPTARSVGAADGS (配列番号:40).

からなる群から選択される、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 19】

前記作用物質が、

(a) 配列がウシ S - Ag (配列番号 36) の配列内に含まれるペプチド、

(b) (a) のペプチドの改変によって得られるペプチドであって、改変が、異なるアミノ酸残基によるペプチドの 1 つ又は複数のアミノ酸残基の置換にあり、前記改変ペプチドが、低い親和性ではあるが、親ペプチドによって認識される T 細胞受容体を依然として認識することができるペプチド (以下「改変ペプチド」)、

(c) ヒト S - Ag (配列番号 35) 又はウシ S - Ag、(a) のペプチド、又は (b) の改変ペプチドをコードするヌクレオチド配列、並びに

(d) ヒト又はウシ S - Ag、(a) のペプチド、及び (b) の改変ペプチドからなる群から選択される作用物質によって活性化される T 細胞

からなる群から選択される、請求項 16 に記載の薬剤。

【請求項 20】

前記ペプチド (b) がペプチド：

TSSEVATE (配列番号:41);
DTNLAASST (配列番号:42);
DTNLAASSTIIKEGIDKTV (配列番号:43);
VPLLANNRERRGIALDGKIKHE (配列番号:44);
TSSEVATEVPFRLMHPQPED (配列番号:45);
SLTKTLTLVPLLANNRERRG (配列番号:46);
SLTRTLTLVPLLANNRERAG (配列番号:47);
KEGIDKTVMGILVSYQIKVKL (配列番号:48); 及び

KEGIDRTVLGILVSYQIKVKL (配列番号:49).

からなる群から選択される、請求項 19 に記載の薬剤。

【請求項 21】

前記改変ペプチド(c)がペプチド:

TSSEAATE (配列番号:50);及び

DTALASST (配列番号:51).

からなる群から選択される、請求項 19 に記載の薬剤。